教職の魅力創造プロジェクトに参加して

樋渡　美千代（山形県教育センター副所長）

教職の魅力創造プラットフォーム会議に参加し、気になっていたプロジェクトがありました。唯一参加したことがなかった「小学校体験セミナー」です。今年度同行させていただく機会をいただいたので、今回はこのプロジェクトの魅力を通して考えたことを中心に記したいと思います。

10 月、高校生と一緒に小学校を訪れました。６年生の教室ではグループに１台ミシンが用意され、子どもたちは針の通し方に苦戦しながらも、楽しそうにその使い方を学んでいました。そんな中、人を遠ざけるような雰囲気を放つ子どもの様子が目に留まり、気になっていました。グループから少し距離を置いたところに一人座り、教師が声をかけても動こうとしません。

このグループの様子を、一人の高校生が心配そうに見ていました。ミシンを操作する子どもたちに時折声をかけながらも、離れて座る子のことを気にしている様子です。私は、このグループの子どもたちと高校生のその後が気になりつつ、その場を後にしました。

午後は協議会が行われました。高校生、大学生、大学院生が入り混じり、子どもの姿から学んだことを語り合っています。私は、どうしてもあの子どもたちのその後と、高校生が何を話すのかが気になり、グループ協議に耳を傾けていました。

「家庭科の授業を参観したのですが、気になる子が一人いました。その子は、学びに参加せず、グループにも入ろうとしません。先生も何もできず、あきらめているように見えました。もうダメかなと思いしばらく見ていたら、グループの中の一人が、その子に『やってみなよ』と声をかけたんです。すると、あんなに何もしようとしなかった子が、少しずつ机を近づけ、ミシンのところに来たんです。友達の一声で、こんなに状況が変わることに驚きました」

この高校生の語りを聴いて、気になっていた子どものその後の状況を知り私もほっとしました。と同時に、この子どもたちの様子を最後まで見守り続け、状況の変化を願い、結果として起こった出来事を喜んでいる高校生の居方に心を打たれました。私がこの高校生の語りに期待を感じていたように、この高校生もこのグループの状況の変化を期待していたのだと思います。

同じグループの子どもが、離れたところにいる友達を気にかけています。この子が声をかけてくれたのでしょうか。

教師という仕事は、このような場面に出あえる魅力的な仕事です。高校生は、たった１日の体験だったにもかかわらず、その魅力を感じとっているように見えました。できるだけ多くの高校生にこのような体験の機会を与えられたら、教師をめざす若者も増えるのかもしれません。

12 月には学びのフォーラムに参加しました。私のグループは、高校生２名、大学生、他県の教師、そして私の５人。自分がのめり込み夢中になっている時にはめきめき力がつくのに、システマティックな学びになった途端やらされている感じになり魅力を感じなくなってしまう等、これまでの自らの体験とつなげて佐伯胖先生の著書を読み込む高校生と大学生の語りに圧倒されました。この大学生は高校生の時もフォーラムに参加し、その時も私と同じグループだったと話してくれました。この事業を通してできたつながりをうれしく思います。最近日本の未来に不安を感じることも多いのですが、若者たちのこのような姿に接し期待が膨らみました。彼らがいつか教師になり、子どもたちの未来のため力を尽くしてくれることに大いに期待したいと思います。